



『であい、ふれあい、そして未来へ』～自分を発揮し 求め続ける白川っ子の育成～

<子どもたちの学びも進化しています！！> ←2020/4～



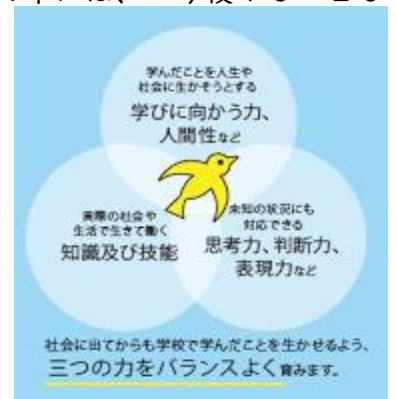
○本年度から学習指導要領が改訂

グローバル化や人工知能(AI)などの技術革新が急速に進み、予測困難な時代になると言われています。子どもたちには自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力が求められます。学校での学びを通じ、子どもたちがそのような「生きる力」を育むために、学習指導要領が約10年ぶりに改訂され、本年度より実施されています。中学年から「外国語教育」を導入、「プログラミング教育」を必修化するなど社会の変化を見据えた新たな学びへと進化していきます。

=「学習指導要領」って？=

「学習指導要領」は、文部科学省が定める教育課程(カリキュラム)の基準で、全国どこの学校でも、学習指導要領に基づき教育課程(カリキュラム)が編成されます。この学習指導要領は、時代の変化や子どもたちを取り巻く状況、社会のニーズなどを踏まえ、約10年ごとに改訂されており、教科書なども学習指導要領の改訂を受けて変わります。

スーパーコンピューター「富岳」も話題になっていますが、近年、グローバル化やスマートフォンの普及、ビッグデータや人工知能(AI)の活用などによる技術革新が進んでいます。10年前では考えられなかったような激しい変化が起きており、今後も、社会の変化はさらに進むと言われています。専門家の中には、「今後10～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い」、「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に小学生の頃には存在していなかった職業に就くだろう」と述べる人もいます。進化した人工知能(AI)が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化されたりする時代が到来し、社会や生活を大きく変えていくとの予測がされています。このように社会の変化が激しく、未来の予測が困難な時代の中で、子どもたちには、変化を前向きに受け止め、社会や人生を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしていくことが期待されています。子どもたちが学校で学ぶことは、社会と切り離されたものではありません。社会の変化を見据えて、子どもたちがこれから生きていくために必要な資質・能力を踏まえて学習指導要領は改訂されます。この学習指導要領のもと、子どもたちに必要な資質・能力を育むためには、学校の授業だけではなく、ご家庭や地域の皆様の理解と協力が欠かせません。学校で学んだことを日常生活で活用したり、家庭や地域での経験を学校生活に生かしたりすることがとても大切です。ご家庭・地域の皆様も、新しい学習指導要領の考え方や、子どもたちが学校で学んでいることに関して、是非、子どもさんと話したり、一緒に考えてみてください。



○学習指導要領から育む力

新しい学習指導要領では、教育課程全体や各教科などの学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力、人間性など」の3つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育てていくことを目指しています。「知識及び技能」は、個別の事実に基づく知識のみでなく、習得した個別の知識を既存の知識と関連付けて深く理解し、社会の中で生きて働く知識となるものも含むものです。そして、その「知識及び技能」をどう使うかという、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力など」、学んだことを社会や人生に生かそうとする「学びに向かう力、人間性など」を含めた「資質・能力」の3つの柱を、総合的に育てます。



○通知表への記載(学習内容評価から観点別評価へ)

＝『新しい学力観』に基づいた評価！ →→→→→観点別評価とは？＝

新しい学習指導要領による教育課程が本年度より実施されています。従来の「教師などから伝達された知識の量を重視する学力観」に対し、「変化の激しいこれからの社会において主体的に取り組み、生きていくことができる資質を養うことを基本的なねらいとし、自ら学習する意欲や能力・思考力・判断力・表現力などの能力を基本とする学力観」と考えその上に立った学習指導の過程や結果を考慮した評価、児童一人ひとりの可能性などのよさを伸ばす評価を考えました。観点別評価は、裏面の各教科三領域の観点で毎日の授業への取り組みの様子や提出物、テストなどから各教科で設定した基準に照らし合わせて評価をおこないます。即ち、テストだけで評価が決まるわけではありません。また、不得意教科だからといって評価が悪くなるわけでもありません。

具体的には昨年度までは、学習の様子については各教科において学習内容で2 or 3段階評価をしてきましたが、本年度から各教科3つの観点【知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度】の項目を、それぞれ細分化して3段階評価に変更してお知らせをします。例えば、低学年国語【知識・技能】の場合は右記のようになります。

- ・言葉に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする
 - ・話の内容を正しく聞き取る
 - ・みんなにわかるように、はっきりと話す
 - ・文章の内容を正しく読み取る
- 等



【知識・技能】

- ・(言語)日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解している。
 - ・(書写)文字を正しくていねいに書こうとしている。
 - ・(ひらがな)ひらがなを正しく読んだり、書いたりしている。
- 等

<FBC花壇へ花の苗定植>←6月24日(水)

ポットで育った花の苗を3・4年生の子どもたちが花壇へ定植作業をおこないました。例年地域の方にお世話になって定植をしていましたが、「新型コロナウイルス感染症」予防のため児童と職員で取り組んできました。本年度はFBC事業が中止となり、8月下旬に行われていた審査も中止となりました。花を育てることは、「環境は人をつくる」と言われるように、花が咲き、ゴミが落ちていない環境が子どもたちの心を豊かにします。そして、美しい環境を地域の方と共につくることで、児童一人ひとりが自らの存在意義を感じ、また、共に助け合い協力しあう精神を培うことで、共に生きる学校・社会の実現につながっていくと思います。そして、これらの活動で、学校と地域の連携がさらに深まり、学校を核とした地域コミュニティが育成されるとも考えます。

